

Conohaの

vol. 2

薄い本!

門書(ノック)ホウ

中級

VPSで自分専用の

☐メールサーバーを

立てよう!



これは出版

<http://www.conoha.jp/>

まえがき

晴れて自分のサーバーをもったら、まず何をしたいか…。多くの人は「とりあえずWebサーバーをつくる!」と答えるところでしょう。じゃあ次は? たぶん「自分だけのメールサーバーを立ち上げたい」んじゃないでしょうか。自分専用のドメインでメールを受信して、自分専用のメールボックスで大量のメールをためておいても誰にも文句を言われない。そんな環境がほしいですね! じゃあ、ConoHaで作ってみましょう!



目 標

- ConoHaのサーバーでメールを送受信できるよう、もっている独自ドメインの設定をおこなう
- メールサーバーの設定をおこない、ふつうのメールの利用ができるようにする

前 提

- とりあえずConoHaでVPSを1台契約済みであること。
[標準OS] CentOS 6.4 (64bit)を使用していることを前提にご説明します
- [vi] エディタを少し操作できること
- すでに「お名前.com」(www.onamae.com)でドメインを契約・保有していること
※実際には他の事業者で契約したドメインも利用できます。

1. 独自ドメインの設定をおこなう

まず、あなたが `example.com` という独自ドメインをもっているとします。そのドメイン宛のメールをあなたのVPSできちんと受け取るには、ドメインとVPSをひもづける設定が必要です。ここではお名前.comでドメインを契約している場合の、設定方法をご紹介します。

※なお、ConoHaでは15日間の無料トライアル期間中はVPSのメールサーバーとしての動作に制限がかかるようになっていきます。まだトライアル中の方は有料になってしまいますがVPSに「継続」を設定してください

1 IPアドレスを調べる

まず、VPSのIPアドレスを調べる必要があります。ConoHaのコントロールパネル (<https://cp.conoha.jp/>) にログインして、「サービス」から「サーバーリスト」を選択。あなたのVPSの「ラベル」部分をクリックしてください。VPSごとの操作メニューが出てくるので「DNS逆引き設定」をクリック。



「IPアドレス」と表示されたのがVPSのIPアドレスです。(メモ) しましょう。

2 DNSレコードを設定する

「お名前.com」(<http://www.onamae.com/>) にログインし、メニュー上部の「ドメイン設定」から「DNS関連機能の設定」>「DNSレコード設定を利用する」とたどってください。以下のような入力欄が出てきます。

● 入力

ホスト名	TYPE	TTL	VALUE	優先	状態	追加
<input type="text"/>	A ▼	3600	<input type="text"/>		有効 ▼	追加

ここで、2つの「**ホスト**」を追加します。「example.com」の部分は、あなたの使いたいドメイン名に読みかえて入力してください。<IPアドレス>は、先ほど調べたVPSのIPアドレスです。

- ホスト名…mail.example.com
- TYPE…「A」
- TTL…3600
- VALUE…<IPアドレス>
- 状態…「有効」

- ホスト名…example.com
- TYPE…「MX」
- VALUE…mail.example.com
- 優先…10
- 状態…「有効」

おけおかんなくてもおきいすんや(ー)

うまく追加できれば「登録済みレコード」の画面が以下になるはずです。

● 登録済みレコード

ホスト名	TYPE	TTL	VALUE	優先	状態	削除
example.com	NS	86400	01.dns.jp		有効 ▼	<input type="checkbox"/>
example.com	NS	86400	02.dns.jp		有効 ▼	<input type="checkbox"/>
example.com	NS	86400	03.dns.jp		有効 ▼	<input type="checkbox"/>
example.com	NS	86400	04.dns.jp		有効 ▼	<input type="checkbox"/>
mail.example.com	A	3600	192.168.1.1		有効 ▼	<input type="checkbox"/>
example.com	MX	3600	mail.example.com	10	有効 ▼	<input type="checkbox"/>

これでよいことを確認したら、「**ネームサーバー変更確認画面**」にチェックをいれて、確認画面へ進みましょう。確認画面で「**設定する**」をクリックします。これでメインの設定は終了です。



II. メールサーバーの設定をおこなう

1 VPSにログインする

次にVPSを操作して、メールサーバーの設定をはじめます。といっても、「標準OS」でははじめから「Postfix」というメールサーバーソフト (MTA) がインストールされているので、そんなに難しくありませんよ。

とりあえず、コントロールパネルからVPSの「コンソール」へ。



大きく「**コンソール**」と書いてある下の黒い部分をクリックしてしばらく待ってから **Enter** キーを押すと、

```
login:
```

と表示されています。「root」+Enter、それからパスワードを入力してログインしてください（新規ユーザーの作成をおこなっていない場合）。ログインに成功すると

```
[root ~] #
```

などと表示されます。

2 Postfixの設定をする

長いけど正しいことなので(・ω・)y

まず、Postfixの設定ファイルである「**main.cf**」ファイルの設定変更をします。

```
# vi /etc/postfix/main.cf
```

おそらく76行目あたり（**:76 Enter** と入力すると76行目に飛びます）に以下のような設定行があるはずです。この `virtual.domain.tld` という部分を「**mail.あなたの独自ドメイン**」に書き換えます。

```
myhostname = virtual.domain.tld → myhostname = mail.example.com
```

次は83行目。以下のように**自分のドメイン**に書き換えます。

```
mydomain = domain.tld → mydomain = example.com
```

99行目では、先頭についている#を消してください（**コメント解除**）。

```
#myorigin = $mydomain → myorigin = $mydomain
```

116行目で、`localhost` となっているのを **all** に変更します。

```
inet_interfaces = localhost → inet_interfaces = all
```

419行目は**コメント解除**してください。

```
#home_mailbox = Maildir/ → home_mailbox = Maildir/
```

569行目はコメント解除して \$mail_name を **unknown** に書き換えてください。

```
#smtpd_banner = $myhostname ESMTPEX $mail_name
```

```
smtpd_banner = $myhostname ESMTPEX unknown
```

最後です。最終行に(最終行へジャンプするにはGを押します)以下を追記してください。

```
smtpd_sasl_auth_enable = yes
smtpd_sasl_local_domain = $myhostname
smtpd_recipient_restrictions =
    permit_mynetworks
    permit_sasl_authenticated
    reject_unauth_destination
mailbox_size_limit = 1073741824
```

長いけど
人生と同じ"ヤ"("▽")

先頭のスペースも意味を持つので注意してください。これでmain.cfの編集は終了です。

:wq Enter を押して vi を閉じましょう。

次に、いくつかのサーバーソフトウェアの自動起動設定をおこないます。

```
# chkconfig saslauthd on && service saslauthd start
Starting saslauthd: [ OK ]
# service postfix start
Starting postfix: [ OK ]
```

3 メールソフトにメールを受け渡すソフトの設定

これだけだとサーバーがお手元のメールソフトと通信をする機能が働いていません。そのために「Dovecot」という名前のソフトを使います。以下のコマンドを入力してインターネット経由でインストールしましょう。

```
# yum -y install dovecot
```

次に vi で「Dovecot」の設定ファイルを変更します。

```
# vi /etc/dovecot/conf.d/10-mail.conf
```

30行目の先頭の「#」を削除し、以下のように書き換えます。

```
#mail_location = mail_location = maildir:~/Maildir
```

:wq Enter で終了したら、別の設定ファイルを編集します。

```
# vi /etc/dovecot/conf.d/10-auth.conf
```

9行目がコメントアウトされているので#を消し、yesをnoにします。

```
#disable_plaintext_auth = yes → disable_plaintext_auth = no
```

あと、少しめでた(●・ω・●)

97行目の末尾に **login** を追加します。

```
auth_mechanisms = plain
```



```
auth_mechanisms = plain login
```

ふたたび **:wq Enter** で終了したら、最後の設定ファイルを編集します。

```
# vi /etc/dovecot/conf.d/10-master.conf
```

88～90行目を以下のように書き換えます。

```
#unix_listener /var/spool/postfix/private/auth {  
# mode = 0666  
#}
```

```
unix_listener /var/spool/postfix/private/auth {  
    mode = 0666  
    user = postfix  
    group = postfix  
}
```

:wq Enter で **vi** を終了させましょう。続いて以下のようにコマンドを打ち込めば、「Dovecot」の設定は終了です。

```
# chkconfig dovecot on && service dovecot start
```

```
Starting Dovecot Imap: [ OK ]
```

4 ファイアーウォールの設定を変更する

せっかく立てたメールサーバーですが、このままだと「ファイアーウォール」というものが見張りをしている外部と通信できません。そこで**SMTP (25番)ポート**と**POP3 (110番)ポート**を開放します。

```
# iptables -I INPUT -p tcp --dport 25 -j ACCEPT  
# iptables -I INPUT -p tcp --dport 110 -j ACCEPT  
# service iptables save  
iptables: Saving firewall rules to /etc/sysconfig/iptables: [ OK ]  
# service iptables restart  
iptables: Flushing firewall rules: [ OK ]  
iptables: Setting chains to policy ACCEPT: filter [ OK ]  
iptables: Unloading modules: [ OK ]  
iptables: Applying firewall rules: [ OK ]
```

これで、ドメインの設定・VPSのメールサーバーとしての設定はひととおり完了です。メールサーバー上で **user** のような名前でも新規ユーザーを作成すると、**user@example.com** というアドレスができ、メールソフトでのメール送受信ができるようになります。意外に簡単でしたね！

おっちゃんの言うとおりにやっつこう？
(´Д`;)ハァ...

VPSは、まだまだ楽しくなる。



<http://www.conoha.jp/>

「ConoHaの薄い本！」

vol.2 VPSで自分専用のメールサーバーを立てよう！

2014年2月28日 初版発行

編集：ConoHaの中の人たち

発行者：見玉公宏

発行所：GMOインターネット株式会社

住所：東京都渋谷区桜丘町26-1セルリアンタワー

TEL：03-6702-0428